

教授就任挨拶



小児科学講座

井 原 健 二

平成26年7月1日付で小児科学講座教授に就任いたしました。私たちの小児科学教室は、大分医科大学として開学以来33年にわたり一貫して小児科診療を担当してまいりました。診療を担当する領域は、いわゆる「かぜ」「胃腸炎」のような比較的軽い病気、予防接種や乳幼児健診などのプライマリーケア、そして神経疾患、アレルギー・免疫性疾患、内分泌・代謝性疾患、血液・腫瘍性疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎臓疾患、未熟児・新生児疾患などの幅広い専門分野に渡り、また小児救急診療、子どものメンタルケアや小児保健事業を含めた「子どものトータルケア」を担います。本院小児科は、専門性の高い重症疾患や難治性疾患の診療を中心に担当し、地域開業のプライマリーケア担当の先生方や小児科二次・三次診療を担う病院勤務医の先生方とともに、大分県下の子どもたちの健やかな成長と発達のお手伝いをしています。

私はこれまで九州大学病院において小児内分泌疾患、代謝性疾患、遺伝性疾患を専門診療領域の中心に据え、小児科、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、臨床遺伝医療部の各部門のスタッフとともに稀少疾患、難治性疾患、急性疾患、慢性疾患、小児保健、臨床遺伝カウンセリングなどの領域について幅広く研鑽を積んでまいりました。大分大学におきましても、これまで以上の最良・最新の小児医療を提供するように努め、大分の子どもたちの健全な成育に貢献する所存です。

教育機関として大分大学医学部の役割は、大分そして日本の小児医療を担う人材の育成です。患者さんとご家族とともに病気に向き合い共に戦う、勤勉で人間性豊かな小児科医を輩出する責務があります。大分大学医学部出身者が大分の小児医療の中核を担い続けるために、長期的な展望を見据えた医学教育に取り組みます。さらに将来は大分から世界に羽ばたく小児科医を輩出することが目標です。

大分の皆さまが、最良の小児医療を享受されるよう誠心誠意努力してまいりますので、皆様のご支援、ご協力を宣しくお願い申し上げます。

教授就任挨拶



麻酔科学講座

北野 敬明

平成26年8月1日より、大分大学医学部附属医学教育センター教授から、麻酔科学講座教授に異動いたしました北野敬明（きたの たかあき）と申します。麻酔科学講座は、手術が必要な患者の皆さんに、安全にそして、できるだけ快適に手術を受けることができ、そして手術からの早期回復ができるような手術前・麻酔中・手術後管理を行うことを最大の使命として活動しております。本院手術部の手術件数は年間約5,500件と同規模の大学病院としても遜色なく、大分県内全体の13%の手術を担当しております。また大学病院として、難易度の高い手術や、全身状態が悪く、通常では手術に耐えられない症例の麻酔管理も数多く行っています。

また、附属病院の集中治療部も麻酔科学講座の大きな活動領域ですが、手術後あるいは全身状態が良くない症例の全身管理と障害を受けた臓器を補助する治療法を行い、数多くの重症患者を救命しております。

手術時の痛みを取り除くのが得意な麻酔科医は、痛みの治療(ペインクリニック)もおこなっており、長期に続く帯状疱疹後の痛み、三叉神経痛、片頭痛などの頭痛、頸部痛、腰部痛、癌性疼痛などの痛みの管理と回復にも積極的に関与しております。

以上のように、数多くの手術時麻酔を持ち、全身管理と疼痛管理が得意な麻酔科医は、集中治療およびペインクリニックでも皆様の病気からの早い回復をサポートしております。

私は昭和59年（1984年）に大分医科大学1期生卒業生として、36年間にわたり大分にお世話になっており、大分がより良くなるよう、麻酔科学、医師の立場から出来る事を行っていきたいと考えております。また大学として大分から世界に発信できる治療法の研究・開発を行っていく所存です。

我々医師は患者さんから学ばさせていただくということを常に肝に銘じ、麻酔科学講座のスタッフと共に頑張って行きたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

教授就任挨拶



臨床薬理学講座

上 村 尚 人

平成26年8月1日付で、医学部臨床薬理学講座の教授に就任しました上村尚人（うえむらなおと）と申します。私は、本学の卒業生で、長い間、アメリカで臨床薬理学の専門家として新しい薬の研究をした後に、16年ぶりに大分に帰ってきました。

附属病院では 臨床薬理センターと総合臨床研究センターを担当させていただくことになりました。臨床薬理センターの治験外来、薬物療法内科外来（お薬相談外来）では、患者さんにとってベストな薬を探して行くことを専門にしています。もっと安全で良く効くような新しい薬がないかを考えることはもちろんですが、古い薬でも、もっと上手な使い方をすることで、患者さんが薬とうまく付き合っていけないかを探っています。また、心身症外来では、ストレスが原因で、様々な心身の症状でお困りの患者さんの治療を考えていきます。

総合臨床研究センターは、院内の全ての診療科の先生方が、最先端の治療方法を試みるところです。総合臨床研究センターでは、多くの診療科の専門医のみならず、基礎医学専門家や、薬剤師、看護師、臨床試験コーディネーターなどがチームで 最先端の治療法の確立に取り組んでいます。総合臨床研究センターは、言わば、「未来の医療を考える場」で、大学病院の総力が必要となります。私は、薬の効き目や副作用を評価する臨床薬理の専門家として、総合臨床研究センターの業務を 支援しています。未来の医療を実現するためには、患者さんの協力も不可欠です。新しい治療法について、知りたい事や分からないことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

災害対策室のご紹介

災害対策室は、平成25年4月1日に、国立大学法人大分大学危機管理規定に基づき、地震等の大規模災害に対する予防措置を講じるとともに、災害応急対策の迅速かつ的確な実施を図るために、大分大学医学部附属病院に設置されました。

本院の防災体制の構築およびライフラインの確保、防災訓練及びトリアージ訓練の実施、災害医療支援、被災地における救援および救護活動、災害備蓄品、BCP（事業継続計画）などに関する業務を行います。また、DMAT（災害派遣医療チーム）活動の管理、支援も行っています。国立大学附属病院災害対策相互訪問事業計画に参加して、災害対策能力の底上げ、災害対策の標準化、災害対策意識の向上、情報の蓄積および共有、ブロックごとの災害対策や情報共有などを推進しています。

平成26年7月1日より、救急車内の画像や位置情報を4つの救命救急センター（大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分市医師会立アルメイダ病院、新別府病院）へ伝送する大分県遠隔画像伝送システムが開始され、災害対策室で協議会の事務業務やサーバー管理を行っています。

（文責 災害対策室 下村 剛）



防災訓練の様子



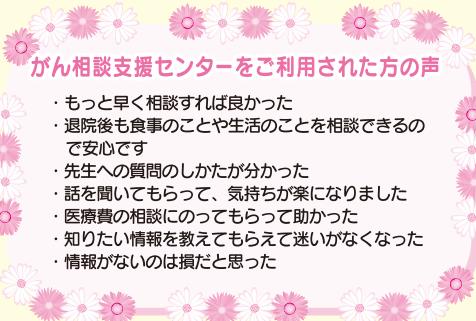
がん相談支援センターのご案内

ひとりで悩まないで お気軽にご相談ください

がんにまつわる不安や悩み、疑問や知りたいことなどの相談に応じています。がんでお悩みの患者さんやご家族、地域の皆さん、医療関係者の方々、どうぞお気軽にご相談下さい。



がん相談支援センターの受付はこちらです。
どうぞお気軽にご相談ください。



がん相談支援センターをご利用された方の声

- ・もっと早く相談すれば良かった
- ・退院後も食事のことや生活のことを相談できるので安心です
- ・先生への質問のしかたが分かった
- ・話を聞いてもらって、気持ちが楽になりました
- ・医療費の相談にのってもらって助かった
- ・知りたい情報を教えてもらえて迷いがなくなった
- ・情報がないのは損だと思った

相談窓口：がん相談支援センター受付
受付時間：08：30～17：00（土日祝日は休み）
電話：097-586-6376
担当者：専任看護師、医療ソーシャルワーカー、事務員、必要に応じて本院の専門職
匿名でもOK、予約は不要、（電話・面談）相談は無料、秘密は守ります



八方塾(大学病院市民公開講座)のご案内

第2回目となる八方塾が、平成26年9月4日(水)に開催され、「睡眠中に呼吸がとまっていますか?」をテーマに循環器内科の田村彰医師が睡眠時無呼吸症候群について話をしました。80人以上の市民の方が聴きに来られ、講演も予定時間を越える程の熱のこもったものとなりました。講演後も演者を取り囲み熱心に質問をされる方が多くいました。下は、その時の写真です。



第3回八方塾は整形外科が主催で、下記の内容で開催します。申し込みや予約は不要です。無料ですので、どうぞお気軽にお越しください。

日 時 平成26年11月5日(水) 18:00~19:00
場 所 大分大学医学部附属病院 外来ホール
テ マ 「腰痛と口コモ」

問い合わせ先：大分大学医学部医事課 患者サービス係
 ☎097-586-5430 (平日9:00-17:00)

駐車場は、医学部附属病院の外来駐車場をご利用ください。当日用無料チケットを配布します。

シリーズ

病院再整備

平成26年7月31日に、外来棟増築予定地において、外来棟改修その他工事の無事完成を祈願して「安全祈願祭」が執り行われました。

本学からは、北野学長をはじめ津村副病院長ら関係者20名が参列しました。

外来棟増築部分は、地上6階建、延べ面積は1,450m²となり、その後、既存の外来棟部分の改修を行います。診察室等の増室、手術室の設置、最上階にはドクターヘリの格納庫を整備します。

今後、本格的に工事が始まり、外来棟、中央診療棟、東病棟及び西病棟と改修を進め、平成29年11月頃に完成する予定です。

患者さん、ならびにご来院の皆さんには、騒音・振動等で大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



安全祈願祭の様子

(文責：病院再整備推進室)



あなたの声を待っています。良い病院になるために

患者さんの「声」は要約して載せておりますのでご了承願います。



声

薬の効用書が渡されていないのはなぜか。

回答

処方された薬に説明書が添付されていなかったというご指摘ですが、当院では処方された薬すべてに説明書は添付しておりません。患者さんから希望があった場合や、医師が必要と判断した場合に添付しております。今回はご希望を事前にお伺いせずに申し訳ありませんでした。また、病棟では、薬剤師が患者さんに薬の説明を実施しています。その際にご要望があれば薬の説明書もお渡ししますので、事前に病棟のスタッフにお申し出下さい。

声

外来化学療法室の仕切りカーテンが常に全床全開されています。個人のプライバシー尊重の意味からも本来カーテンはクローズすべきものではないでしょうか？私の知る限り他の病院ではどこも他の患者の顔が見えないよう配慮をされていました。リラックスして治療を受けるという意味でもクローズが本来の対応だと思うのですが。

回答

外来化学療法室は、治療中の患者さんの安全・安心を考え、看護師2名で管理を行っています。ベッドは8床あり、各ベッドにカーテンが設置されていますが、安全な治療管理という点から、看護師が患者さんの異常を早期発見し対応するために、カーテンは閉めていませんでした。また、患者さんのプライバシーを考え、ご希望に応じてカーテンを閉めるようにしていましたが、今回は患者さんへの説明が不足していたと思います。今後、外来化学療法室で治療を行う患者さんは、カーテンの開閉についてご要望を確認するとともに安全な治療管理の点についてもご理解いただけるよう説明し、対応したいと思います。

声

2階売店前の大分銀行ATMは、車いすや身障者にとって大変不便を感じています。コンビニや売店への動線が活かされていません。ATMのドアを自動もしくはスライドに替えてほしいお願いいたします。

回答

大分銀行に要望しました。病院再整備の改修工事を行っており、売店の場所等についても検討しておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

声

トイレ掃除をもう少し頻繁にしてください。汚物で便器だけでなく手すりや床も汚れていたため自分で掃除をすることが度々ありました。浴室、シャワールームの床も茶色や黒のシミが多く、使用前に掃除をして、使用後にも掃除をしました。

回答

このたびは大変不快な思いをさせてしまったことをお詫び申し上げます。トイレおよび浴室の掃除に関しては、委託している専門業者に申し入れをし、快適な療養環境を目指していきます。

大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)

大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

1号から58号までの「かけはし」は、医事相談窓口にありますので、遠慮なくお申し付け下さい。
また、医学部附属病院ホームページからもご覧いただけます。

